



医療法人 啓信会
京都きづ川病院



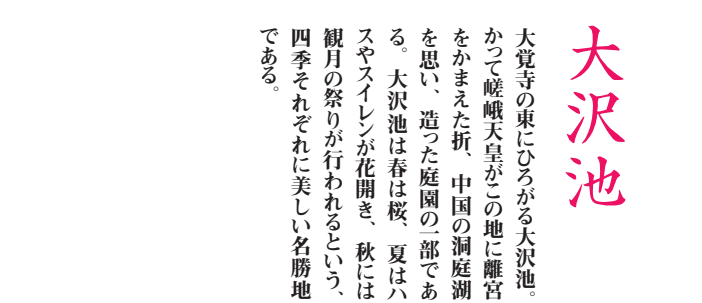
2009 vol. 22

季刊 すまいる smile



海津大崎

琵琶湖の北端。湖につき出た海津大崎はいま春爛漫。東西四キロにわたって六百本の桜のトンネルがつづくさまは息をのむ思い。海津大崎は日本桜百選に選ばれている。今年に湖に船を出し、ワイドな桜を楽しむ企画も――。



大沢池

大覚寺の東にひろがる大沢池。かつて嵯峨天皇がこの地に離宮をかまえた折、中国の洞庭湖を思い、造った庭園の一部である。大沢池は春は桜、夏はハスやスイレンが花開き、秋には観月の祭りが行われるという、四季それぞれに美しい名勝地である。

和菓子

春霞がたなびき、水がぬるむと、香気が高く、野趣に富んだたべものがいっぱい。よもぎもち、さくらもち、花見だんご、ちまき、かしわ餅。またヨメナ、カタクリ、レンゲソウ、ノカンゾウ、ユキノシタ、フキノトウ、あえもの、てんぷら、三杯酢、たまごじ、などなど。その味は「ほろにがき恋の味なりふきのとう」といったところ。



茶摘み

「夏もちかつく八十八夜」立春から数えて八十八夜は五月初旬。この頃から茶摘みがはじまる。この時期の一番茶は水色、形状、香気ともに優れ、とくにうまみ成分のテアニン(アミノ酸)が豊富に含まれ、上品な甘さが嬉しい。



詩仙堂

江戸時代の文人、石川丈山が隠棲したという山荘。その庵に漢、晋、唐、宋の詩人三十六人の肖像を掲げたので詩仙堂と命名した。庭には池が造られ岸辺には花が咲きみだれカタタという鹿おどしの音がひびき、いつそう静けさが身にしみる風雅なたたずまいである。



医療法人啓信会 理事長
中野博美

北山のスカイライン

私の部屋は京都きづ川病院の4階北側にある。窓から外を見ると、眼下にお茶やお米の田畑が広がっている。また古川が京都市内の常識(川は北から南へ流れる)とは反対方向の、北に向かって流れているの見える。少し遠くへ目をやると、北方に京セラのビルが見えて、その向こうに京都タワーがロウソクのように見える。もっと向うには、西に愛宕山、真北は北山、東には比叡山があるのだが、真北方向の北山の見える日は少ない。理由は、京都市上空がいつも汚れて霞んでいるためである。盆地地形のためもある。北山の稜線(スカイライン)が見えるのは1年365日の内せいぜい1割くらいである。

北山から流れ出す鴨川の源流は、北山北部に位置する棧敷ヶ岳付近の名もない840mの山頂近くにある。登ってみるとそ

の頂上に高さ15mくらいの3本杉がある。ある空気の澄んだ日に、病院の部屋から何となく北山を見ていたら、その3本杉が見えるように感じた。3本杉までの距離は34kmくらい。もう少し近づいて羽束師の鴨川最下流からそこを見ると、やはり杉の木らしい(距離27km)。もっと近づいて京見峠から見ると、今度ははつきり3本杉だと分かった。ここからだと言通の小さなカメラでもちゃんと杉の木が写る(距離10km)。ふと、ある考えが浮かんだ。鴨川の1方の端からもう1方の端の画像が撮れないだろうか、と。距離は27km。更に上記したように、北山のスカイラインが見える日は少ない。まして3本杉が写るような澄んだ空気の日は年に2〜3日しかない。もちろん京見峠から羽束師までの距離17kmは、光がまともに京都市上空を通過するため霞んでしまうからである。天気が良いてもなかなか撮影機会はなく、最近はいつも黄砂と花粉とスモッグを恨めしそうに見上げているところである。



脳神経外科

副院長、脳卒中・神経疾患センター所長
脳神経外科

山上 達人



■ 脳神経外科とは

脳、脊髄、末梢神経を含む、すべての神経系とそれらに関連する骨、筋肉、血管などの疾病の診断、手術を含めて総合的治療に取り組んでいます。

具体的には、脳卒中(くも膜下出血、脳出血、脳梗塞)や頭部外傷などの救急疾患、また、脳腫瘍、てんかんやパーキンソン病、三叉神経痛や顔面けいれん、小児奇形、脊髄、脊椎、末梢神経などの疾患が対象です。

■ 治療、最新手術

パーキンソン病、振戦や不随意運動の治療として脳深部刺激療法、難治性疼痛や神経機能回復のため脊椎硬膜外電気刺激療法などを行っています。また、脳室内、脳室近傍や脳深部における負担の少ない最新治療といえる神経内視鏡を用いた手術方法も取り入れています。一方、手術用の顕微鏡を用いた正確な直視下での開頭術も実績を積んでいます。

■ さらに満足いただける医療を

当科では「早期の診断・治療、迅速なる対応」を治療方針として診療にあたっています。適切なタイミングの良い治療を選択するため、救急24時間対応で診療に応じえています。

今後はさらに、脳動脈瘤の早期治療によるくも膜下出血の予防や、脳腫瘍の早期治療による生命維持および機能予後の改善など、重篤疾患の予防的早期治療を積極的に行っていきたいと考えています。一方、再生治療の充実にも努力しており、電気刺激療法を応用した治療で、神経脱落症状の機能回復も行っています。

高齢者には侵襲の少ない治療で血管内治療を行うなど、痴呆に陥らないための予防と早期治療に取り組んでいます。

- ・ 日本脳神経外科学会指定病院(A項)
- ・ 日本脳卒中学会認定研修教育病院

【主な疾患】

- ・ 慢性硬膜下血腫
- ・ 水頭症
- ・ 脳動脈瘤破裂による、くも膜下出血
- ・ 未破裂脳動脈瘤
- ・ 脳出血
- ・ 外傷性頭蓋内血腫
(急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫)
- ・ 脳腫瘍
- ・ パーキンソン病
- ・ 頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症
- ・ 手根管症候群
- ・ 難治性疼痛

【年間患者数】

入院：約800名 外来：約2,000名

【主な医療機器】

MRI、MRA、DSA、(X線)、CT、3D-CT、Xe(キセノン)CT、ABR(聴性脳幹反応)、SEP、EMG(筋電図)、NCS、EEG(脳波)、超音波血流計、TCD、頸動脈echo、神経内視鏡、定位脳手術装置(駒井式及びLeksell式)、Nd-YAG laser、高気圧酸素療法装置、手術用顕微鏡3台

【他医療機関との連携】

京都医療センター(神経内科的疾患)
 京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院
 ほうゆう病院(内科的疾患)
 京都大学医学部付属病院(放射線治療)
 洛西シミス病院(r-knife治療)
 三好耳鼻咽喉科、沼眼科、狩野内科
 おおむら医院、ほりうち医院

【担当医師および専門分野】

武内 重二

脳腫瘍全般(特に下垂体腫瘍、松果体部腫瘍などの第Ⅲ脳室近傍腫瘍や悪性脳腫瘍)脳動脈瘤を中心とした脳卒中、機能的疾患(三叉神経痛や顔面けいれん)、パーキンソン病とその関連疾患、てんかん、リハビリテーション

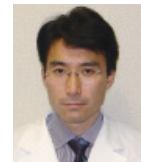


山上 達人

良性脳腫瘍、脳動脈瘤や脳出血などの脳卒中、頭部外傷、頸椎を中心とした脊椎疾患、末梢神経疾患、難治性疼痛、意識障害の治療、神経内視鏡による手術

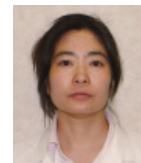
箕輪 哲也

脳動脈瘤、脳血管再建術、頭蓋内血腫、頭部外傷、水頭症



布施 郁子

パーキンソン病、定位脳手術、機能脳神経外科、脳神経外科救急疾患

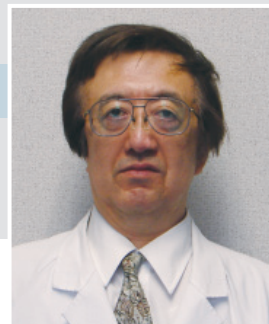


中野 博美

脳動脈瘤を中心とした脳神経外科全般



循環器内科



副院長、循環器内科
宮永 一

■ 循環器内科とは

体に酸素・養分を供給する血液を全身に循環させる臓器、すなわち心臓・血管などの病気を扱う部門です。

■ 一人ひとりに合った医療を

扱う疾患の性格上、受診される皆様は成人病が現れはじめる中高年の方が多く、働き盛りの方が突然倒れられたり、症状に苦しみながらもなかなか検査や治療に時間は取れない方などがいらっしゃいます。そのような方のために検査、入院期間なども柔軟に、かつ短期間で対処できるように努めています。

また逆に高齢者の方は循環器の疾患だけではなく、脳血管障害、糖尿病、整形外科疾患などいろんな疾患をもっておられます。また入院され病状が軽快しても、なかなか社会生活に復帰できない場合が多く見られます。このような方のQOL（生活の質）を改善するため、他科の医師と綿密な連携をとって治療に当たるとともに、早期のリハビリ、またソーシャルワーカーによる退院支援を行っています。

現在は医療も進歩し、治療の選択肢も増えてきました。また受診される方の生活背景も異なり、希望される医療にも差があります。緊急時などは除き可能な限り、個々の受診される皆様の意向を尊重した治療を提案していきたいと思っています。

■ 他院との連携

当院は残念ながら、大動脈瘤破裂、冠動脈バイパス術などの心臓血管外科の治療ができません。しかしながら心臓血管の手術に関しては、他の医療機関の心臓血管外科医と連携して速やかに対処できるようにしています。

■ 地域住民の頼れる病院に

当院の設立理念は地域医療に貢献することです。循環器内科といたしましても、城陽市を中心とした地域住民の方に、循環器で困っていることがあったら、まず当院

へ受診して相談してみようという気になっていただける、循環器内科を目指しています。

【主な疾患】

- ・ 心筋梗塞、心不全、心臓弁膜症、不整脈、高血圧症、高脂血症、動脈硬化性循環障害、血栓、塞栓症など

【検査・治療】

心電図、運動負荷心電図、心臓および血管超音波検査、脈派伝導速度、24時間心電図、24時間血圧計、冠動脈CT検査(4月より)、各種心血管造影。治療としては投薬、食事指導、バルーン(風船)、ステントを用いた血管形成術、ペースメーカー植え込み術など

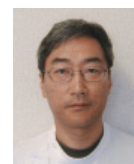
【担当医師および専門分野】

宮永 一
循環器専門医、心臓核医学、冠血管形成術

中川 達哉
循環器専門医、救急医療、リハビリテーション、冠血管形成術

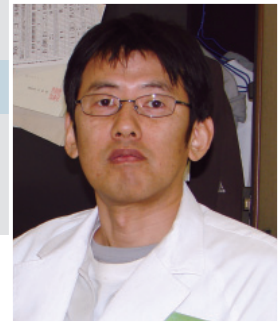
松井 浩之
循環器専門医、冠血管形成術

國枝 泰史
循環器専門医、救急医療、冠血管形成術



府立医大循環器内科医師 6名
外来、救急担当、冠血管形成術

外科



副院長、部長 外科
大同 毅

治療方針

外科では、良質で安全な医療を効率的に地域に提供することをコンセプトに診療を行っています。

最新手術を導入

体にやさしい最新手術である腹腔鏡を用いた大腸手術を導入しています。

腹腔鏡手術は直視下に手で臓器を触って手術するのではなく、カメラを挿入しておなかの中をモニターに映し出し、さまざまな器具を使って病巣部を摘出する方法です。この手術は、腹部の傷が以前の方法よりかなり小さく、病巣を取り出すための4cmほどの傷とその他の器具挿入のための小さな傷数が所で行うことができます。

患者さんの利点は傷跡が目立たないこと、癒着が少ないことなどがありますが、すべての患者さんに対応できる手術方法とは限りませんので、医師とよくご相談ください。

地域の方々のニーズに合った医療を

外科的疾患の急患については何時でも診察し、必要に応じて急患手術を含めた治療ができる体制を取っています。また、乳腺疾患の診察・治療に関しては予約制にしてなるべく待ち時間が短くなるよう努力しております。

高価な設備の整った大きな病院や大勢のスタッフがなければできない医療もありますが、他の医療機関とも連携し、地域の住民の方々の生活を考えた地域に合った医療を目指しています。

【他医療機関との連携】

京都府立医科大学付属病院、宇治病院(乳腺)、京都プレストセンター沢井診療所(乳腺)

【主な疾患】

- ・ 消化器病(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門)の良性・悪性病変、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓の病変。
- ・ 乳腺の良性、悪性腫瘍。
- ・ 胃・十二指腸・大腸などの穿孔、急性胆嚢炎、急性胆管炎、急性膵炎などの急性炎症性疾患、急性虫垂炎(いわゆる盲腸)。
- ・ 一般の外傷、熱傷、自然気胸その他。

【担当医師および専門分野】

大同 毅
消化器外科、一般外科、乳腺

大林 孝吉
消化器外科、一般外科、腹腔鏡手術、化学療法



國嶋 憲
救急、消化器外科、一般外科



望月 聡
消化器外科、一般外科



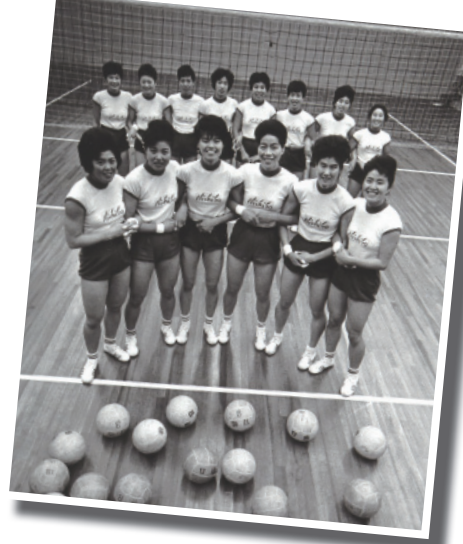


文化講演会レポート

「バレーボールと私」

元女子バレーボール日本代表主将

河西昌枝さん



日紡貝塚チーム(女子バレーボール)。
1964年オリンピックのホープ。前列右から、半田百合子、磯辺サダ、河西昌枝(主将)、宮本恵美子、松村好子、谷田絹子選手。(大阪府貝塚市日紡体育館) 1963年12月撮影 (写真提供: 朝日新聞社)

1933年山梨県生まれ。1952年山梨県立巨摩高等学校卒業後、ニチボー(現ユニチカ)足利工場に入社。54年新設されたニチボー貝塚に異動。故・大松博文監督が率いる全日本女子バレーボールチームのキャプテンを務め、60年世界選手権大会第2位、62年世界選手権大会制覇、64年東京オリンピック金メダルを獲得。チームは「東洋の魔女」と呼ばれた。65年、選手引退後に結婚。以後、ママさんバレーの指導をはじめ、バレーボールの普及活動に尽力した。2003年～04年まで日本バレーボール協会女子強化副委員長、04年のアテネオリンピックで全日本女子チーム団長を務めた。

昨年6月、東京オリンピック(1964年)で金メダルを獲得した元女子バレーボール日本代表主将の河西昌枝さんをお招きして、「文化講演会」を開催しました。

河西さんは「バレーボールと私」と題して、「東洋の魔女」と呼ばれ注目を集めた当時のチームの様子や、バレーボールとの出会いなど、元氣にお話くださいました。

会場には、ママさんバレーをされている方、東京オリンピックを観戦された方など、約100人の参加者が集まり、熱心に聞き入っていました。河西さんは講演後、金メダルを皆さんに手渡して見せてくださったり、記念撮影にも気軽にに応じてくださり、交流を深めていました。

東京オリンピックへの道

戦後すぐに、中学校の部活動でバレーボールを始めましたが、どんだんのめり込み、大好きになりました。高校のとき、身長が172cmと高かったことから、当時、日本一だったニチボー(現ユニチカ)の監督にお誘いを受け、卒業後、ニチボー足利工場に入社しました。あまり上手ではありませんでしたが、バレーへの思いは誰にも負ませんでした。

入社して2年後、大阪の貝塚工場にバレーボールチームを新設することになり、異動したのですが、そこで故・大松

博文監督と出会ったのです。

このチーム、ニチボー貝塚は、その後、1958年に国内4大会(都市対抗実業団大会、国体、全日本総合)全制覇という快挙を成し遂げました。私は、このとき25歳で、もはや、国内で目指す頂点もなく、バレーボールをやめてもいいと考えていたのです。

ところが、その頃9人制だったチーム編成が、当時世界の主流となっていた6人制へと代わることになりました。それで「6人制になったら海外遠征もできる。私も海外に行きたい」と気持ちを切り替え、2年後の世界選手権大会を目指して続けることに決めました。今、振り返ると、この時が私の人生の大きな分岐点となったように思います。

当時のバレーは、チーム内で今のような役割分担はなく、全員がなんでもしました。回転レシーブの練習も、とにかく転がることから始めて、あざを作りながら何回もやって、自分たちで工夫し、身に付けていきました。大松監督と仲間たちとともに、一生懸命、ひたむきにバレーボールと向き合い、生きていました。その後、60年の世界選手権大会で第2位となり、62年の世界選手権大会では当時のソ連チームを破って優勝。そして、ついに64年の東京オリンピックで金メダルを獲得できたのです。

現役時代の経験が強い支えに

その翌年3月にニチボーを退社し、5月に結婚。31歳でした。3人の子どもに恵まれましたが、11年前に主人を亡くしました。

その後の人生では、バレーボールをしていたあの頃、あの時を乗り越えられたからこそ、という思いが常にあります。ちよつと弱気になると叱咤激励するもう一人の自分がいるのです。不可能を可能にする努力の大切さをしみじみ考えます。これでいいということは、死ぬまでないのだと思っています。

東京オリンピックから44年。今も6人の仲間が1人も欠けることなく、強いきずなで結ばれた仲間であり、私の財産です。今、2016年の東京オリンピックが決定されたら、ぜひ、聖火の最終ランナーをさせてほしいと石原慎太郎都知事をお願いしているんですよ(笑)。それが、私の生きる張り合いであり、元氣で長生きする目標となっています。

2008年 6月21日
於：文化バルク城陽「京都きつ川病院文化
月間行事 春の講演会」

手作り保温具を使った術中体温保持への試み

～スナグルウォーム～との比較～

体温は生体で産生される熱とその放散とのバランスで決定されます。全身麻酔中の患者様は麻酔薬の影響による再分布性低体温や室温への暴露、術野からの水分蒸発などによって体温低下を起こしやすい状況にあります。体温低下は薬物代謝の抑制に伴った覚醒遅延、免疫能低下による創感染、血小板凝集能低下による出血傾向などを引き起こす可能性があります。

手術中の体温低下予防として主な病院では、循環式温水マットと温風式体温回復システムを使用しています。当院手術室では温風式体温回復システム(スナグルウォーム)を使用しています。しかし、台数に限りがあり部位によっては使用することができないため、全ての症例に使用できていないのが現状です。

当院手術室では、パイル生地と冷気を防ぐビニール生地を合わせた手作り保温毛布を作成し、導入を試みました。

保温毛布の表面は、空気が通りにくい防水ビニール生地を使用した事で、外気からの影響を受けにくくし、対流による熱移動を抑え、体温低下の防止に繋がりました。体面素材もパイル生地を使用した事で、伝導による熱移動を抑える事が出来たと考えます。スナグルウォームが加温装置として優れているのは一般に知られるところですが、その機能と同等に近い保温能力が結果として得られたことにより、保温毛布の優位性を証明する事になりました。

保温毛布では自由に形が変えられること、手術部位によっては2枚使用することで体を覆う面積を増やすことができ、保温効果を上げる結果に繋がったといえます。

低体温による患者様へ与える影響は明確化されつつある現在において、手術中の保温は安全・確実に行うことが必要とされます。今回の研究を今後の手術室看護に役立てていき、手術を受けられる患者様の安心・安全に貢献出来るように努めていきたいと思っております。

手術室 寺内保博

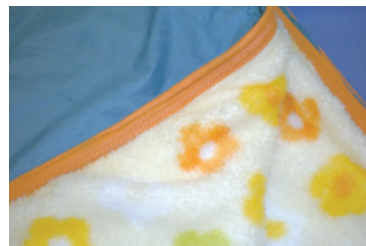
● スナグルウォーム(上半身用)



● スナグルウォーム(下肢用)



● 保温毛布 ↓ ビニール生地



↑ パイル生地

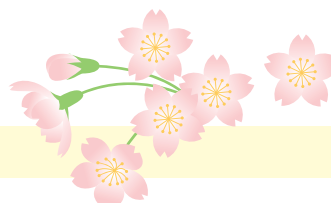
● 術中の使用方法



病院内の行事や予定などのお知らせです。
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載してしますので、
ぜひご覧ください。

啓信会 ウェブ検索

<http://kyoto-keishiinkai.or.jp>



春の文化講演会のお知らせ

講演	「医療提供体制の現状と課題」
講師	厚生労働省保険局医療課長 佐藤敏信氏
日時	2009年 6月13日(土) 14:00~16:00(受付13:00~)
場所	京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間
参加費	無料 (講演終了後は、コーヒー&ケーキでご歓談ください。)
連絡先	0774-54-1111 (担当:林)
主催	医療法人 啓信会 京都きづ川病院

啓信会グループ

- | | | |
|--|---|--|
| <p>京都 四条病院
TEL.075-361-5471 FAX.075-343-9211</p> <p>京都きづ川病院
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118</p> <p>きづ川クリニック
TEL.0774-54-1113 FAX.0774-54-1115</p> <p>介護老人保健施設 萌木の村
TEL.0774-52-0011 FAX.0774-52-0701</p> | <p>●在宅サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーション きづ川はろー 訪問看護ステーション 萌木の村 ヘルパーステーション 萌木の村 21 ヘルパーステーション リエゾン大津 ヘルパーステーション リエゾン大久保 ヘルパーステーション リエゾン四条 ヘルパーステーション リエゾン健康村 介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村 デイサービスセンター リエゾン健康村 デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村 居宅介護支援センター 萌木の村 居宅介護支援事業所 リエゾン大津 居宅介護支援センター リエゾン四条 ケアプランセンター リエゾン健康村 ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里 | <p>●地域密着型サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村 小規模多機能ホーム リエゾン健康村 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里 デイサービスセンター リエゾン萌木の村 グループホーム リエゾンくみやま グループホーム リエゾン健康村 <p>●教育部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルパースクール 萌木の村 大久保校 ヘルパースクール 萌木の村 大津校 <p>●病後児保育事業所 京都きづ川病院</p> |
|--|---|--|



医療法人 啓信会 **京都きづ川病院**

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119
URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>